

保健室だより

平成 28 年 5 月発行
大正大学 保健室

今、若い人の大麻事件や、危険ドラッグを使用した状態で自動車を運転し、第三者を巻き込む事故が発生するなど、薬物乱用が社会問題となっています。

薬物乱用は、身体上の問題だけではなく、心にも影響を与え、充実した学生生活を送ることが困難になるなど、皆さんの生活を根底から変えてしまうものです。薬物乱用についての正しい知識を身につけて、そして、あなた自身を大切にしましょう。

正しい知識を知りましょう！



薬物乱用のQ&A

Q1：薬物を使うと、やせることができたり、勉強がはかどったりするって本当ですか？

A1：間違いです。覚せい剤などの薬物は、中枢神経に作用して、一時的に食欲や眠気をなくすだけです。作用がなくなると異常に食欲が強まり、やせることはありません。そして、強い疲労感、倦怠感や脱力感が襲って、勉強に集中出来なくなります。

Q2：危険ドラッグは安全と聞きますが、本当に大丈夫なのですか？

A2：安全ではありません。これらの商品は、覚せい剤など規制薬物の化学構造に似せてつくられており、規制薬物と同等の作用を有する成分を含む商品が多く大変危険です。また、商品の中には、合法と称して麻薬などの規制薬物や指定薬物が含まれていた例もありますので、**絶対に手を出してはいけません。**無責任な噂に惑わされてはいけません。

Q3：外国では大麻が認められているといいますが、日本で吸ってもO.K.？

A3：吸ってはいけません。もちろん別の方法で用いてもいけません。大麻は乱用すると幻覚、妄想や無気力などの大麻精神病を引き起こす危険な薬物です。乱用するとより強い薬物へとつながりやすく、依存性が高くなります。また、多くの国でも規制の対象となっています。

Q4：友達が薬物を勧めてきて断れません。どう対処したらいいですか？

A4：きっぱり「いやだ！」と断りましょう。その場の雰囲気流されて、あるいは一時の快樂のために薬物に手を出してしまうと、もう後戻りできません。あなたにとって「一番大切なものは何か」を今一度、考えてみましょう。

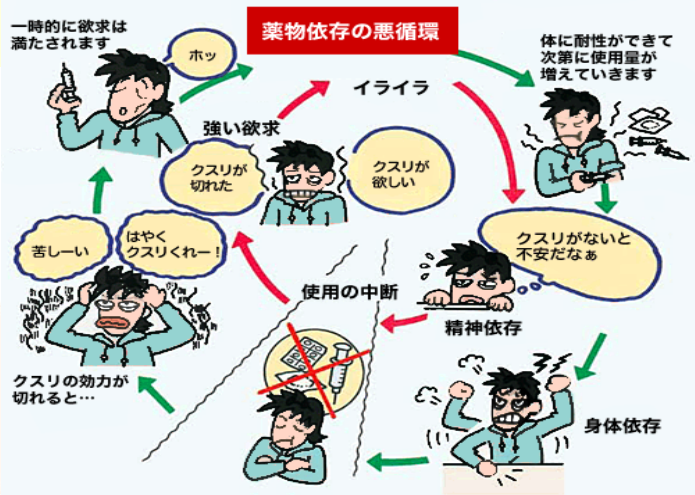


薬物依存が大切な脳を傷つける！ -薬物依存の悪循環-

近年の研究で、薬物依存は薬物使用による快感を脳が記憶していることによって起こることがわかってきました。人は快感を得ると、脳内で神経伝達物質ドーパミンが分泌されて、中脳の脳内報酬系という部分に作用します。報酬系は刺激を受けると「また同じ快感を味わいたい」という欲求が生まれます。**薬物依存の正体はこの「精神依存」**なのです。そしてこの精神依存は一生治らないと考えられています。

実際、覚醒剤の使用や所持等で検挙された人のうち、再犯者、つまり再び覚醒剤事犯で検挙される人の割合は約 65%（平成 26 年度統計）に上っています。

脳への影響



薬物乱用は犯罪です。-指定薬物の取締強化-

罰則は国によって違いがありますが、どの国でも薬物犯罪には、大変厳しい罰則があります。最高刑が死刑という国もあります。たとえば中国、韓国、シンガポール、タイでは死刑です。薬物乱用は、その国の人ばかりではなく、観光に訪れた外国人でも犯罪者として逮捕されます。

日本では、平成 26 年 4 月 1 日から、薬事法の指定薬物について、その「所持」、「使用」、「購入」、「譲り受け」が新たに禁止されており、違反した場合は刑罰が科せられます。学生であろうとも、刑罰を受けることとなります。

「学生のためのおいしい自炊料理教室」参加しませんか。無料です。♪

全国で料理教室を開催する一般財団法人バターホーム協会は、2016年6月～7月に、「学生の方への食のサポート」を目的とした**参加無料**の料理教室を合計 19 クラス開催いたします。カフェや学食で人気の「タコライス」、学生の方が欠食しがちな朝食にも活用していただける「野菜と豆の食べるスープ」「オレオジマリネヨーグルト」の3品を実施します。申し込みなど詳細は、バターホームHP (<http://www.betterhome.jp/school/map/index.html>) をご覧ください。

